



金沢大学 (石川県)



日本社会・文化の研究、日本伝統文化体験、日本人学生との合同調査などの「日本探求」を通じた実践的日本語力が習得できます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

金沢大学は、1862年の加賀藩種痘所を源流とし、1949年に新制の総合大学として設立されました。現在 4学域、18学類（(1) 融合学域：先導学類、(2) 人間社会学域：人文学類、法学類、経済学類、学校教育学類、地域創造学類、国際学類、(3) 理工学域：数物科学類、物質化学類、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類、生命理工学類 (4) 医薬保健学域：医学類、薬学類、医薬科学類、保健学類）及び、7 研究科（人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、先進予防医学研究科、新学術創成研究科、法学研究科、教職実践研究科）から構成されている総合大学として、幅広い分野での教育・研究活動の拠点となっています。金沢大学は、全国の大学に先駆けて、1956年から外国の大学との交流協定を締結して、学術文化の国際交流並びに、留学生交流を推進してきました。

2) 教員・学生数等 (2021年5月1日現在)

【教員数】1,336名、【学生数】10,111名(学域・学部生：7,773名、大学院生：2,301名)

② 国際交流の実績

交流協定校数：291機関(47か国、1地域)
大学間交流協定：204機関(42か国、1地域)
部局間交流協定：87機関(27か国、1地域)
留学生在籍数：636名

日本語・日本文化研修生合計受入数：
345名(令和3年度受入の27期生を含みます)

③ 過去3年間の受入留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入実績

2021年：留学生数636人、日研生8人
2020年：留学生数618人、日研生9人
2019年：留学生数666人、日研生10人

④ 地域の特色

金沢市は古くからの城下町で、今まで大きな災害に遭わなかったため、昔の建物などが多く残っています。伝統工芸、古典芸能の盛んな、文化の香り高い日本の雰囲気を感じ、四季の移ろいを実感できる街です。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

金沢大学日本語・日本文化研修プログラムは参加学生の日本語能力ならびに研究能力の向上、及び日本社会・文化に対する理解を促進することを目的とした全学習を日本語で行う1年間のプログラムです。

③ 受入定員

15名(大使館推薦5名、大学推薦10名)

④ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムの受講を出願する者は、以下の要件を満たす者とします。

日本語能力：日常生活に必要な日本語能力(日本語能力試験N2合格程度)を有し、平易な文章の読み書きができる者

所属学部・学科：海外の大学において、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者

学年：海外の大学において3,4年次に在学中の者

学習姿勢：日本研究に対し意欲的であり、1年間積極的な姿勢で本コースの学習に専念する意志を有する者

⑤ 達成目標

修了時点で日本語能力検定N1レベルの日本語力、ならびに大学院進学に必要な研究能力の習得を目指します。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間：2022年9月下旬～2023年8月下旬
(在籍期間：2022年10月1日～2023年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2022年10月～2023年8月



兼六園

⑧ 研修・年間スケジュール・

授業期間：10月～2月(秋学期)

4月～8月(春学期)

修了研究(発表練習、論文作成)期間：8月1日～8月31日

9月下旬：渡日

9月下旬：開講式、オリエンテーション

10月：里親対面式

11月：里親とのバス旅行

11月または12月：留学生懇談会

12月：修了研究構想発表会

4月：修了研究中間発表合宿

8月初旬：修了研究発表会

8月中旬：論文提出締切

8月下旬：修了式

8月下旬：帰国



授業の様子

⑨ コースの修了要件

必修授業科目の履修・合格、並びにプログラム終了時の修了研究の口頭発表及び論文提出が修了要件です。本研修プログラム修了者に修了証書を授与します。また、履修した授業科目、成績評価及び単位数が記載された成績証明書を交付します。本プログラムの構成は次のとおりです。なお、1科目(2単位)は15コマ(1回90分)の講義から成ります。

必修授業科目	単位数	
	秋学期	春学期
日本語	20	
日本文化演習Ⅰ	2	2
日本文化演習Ⅱ	2	2
日本文化・社会学習	2	選択
調査実習	2	選択
修了研究演習	2	2
修了研究論文及び研究発表	-	4
合計	40	



能登旅行

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本プログラムでは、修了研究論文を最も重要なカリキュラムとして位置付けています。修了時点で、参加学生は大学院に進学するために必要な研究能力を身につけることを目指します。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

日本語科目(秋・春学期 合計150コマ)
レベル別日本語、漢字及び技能別日本語の授業

日本文化演習Ⅰ(秋・春学期 各15コマ)
学内外の専門家による日本語・日本文化についての講義

日本文化演習Ⅱ(秋・春学期 各15コマ)
演習形式による発表・ディスカッション

日本文化・社会学習(秋学期 15コマ、春学期は選択)
金沢の豊かな伝統文化の体験、および現代日本社会についての学び

調査実習(秋学期 15コマ、春学期は選択)
研究方法論や日本語によるプレゼンテーションスキルの習得

修了研究演習(秋・春学期 各15コマ)
研究方法の習得

修了研究論文及び研究発表(春学期 30コマ)
口頭研究発表、修了研究論文の提出

II) 選択科目

正規授業科目の履修(秋・春学期)
学部正規生向けに開講している一般授業科目の履修

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加型科目及びその具体的な内容

「伝統工芸と職人の技」

北陸地域の漆工芸や和紙を鑑賞しながら、職人の技と精神を実体験します。

「現代アートとデザイン」

ワークショップやアーティストとの対話、21世紀美術館見学などを通じて、受講生の金沢の現代アートとデザインに関する理解を深めます。

「日本の社会と伝統文化」

金沢の伝統美術・工芸の文化体験を通じ、何百年もの間、匠達の手によって代々継承されてきた技能の一端を垣間見ること、日本文化に対する多角的な観点を形成します。

「ユネスコジオパークとエコパーク」

白山麓の地域をフィールドにし、地域の人々の伝統的な生活様式を体験したり、地域課題や地域再生に向けての様々な取り組みを紹介します。

「サービス業や福祉施設にみるおもてなしの心」

金沢の料亭や保育園、高齢者介護福祉施設などを訪問し、その業務の一部を学生にも体験してもらいます。

「日本と金沢の建築・都市、これまでとこれから」

金沢をはじめ日本の建築とまち、人の営みとまちの関連性について理解を深め、建築・都市と文化・経済・歴史の相互関係を理解します。



加賀友禅体験

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

「調査実習」

日本人学生と合同で小グループを形成し、比較文化的な観点から日本社会・文化についての合同調査・研究を行います。

「日本文化演習Ⅱ」

この科目は日本文化演習Ⅰで扱った各テーマに関して、日本人学生も交えて演習形式による発表・ディスカッションを行います。

⑪ 指導体制

指導教員：

山本 洋

(国際機構・准教授、専門：歴史学、文学)

峯 正志

(国際機構・教授、専門：言語学)

本プログラムの参加学生は国際機構に所属し、プログラム担当教員が指導教員として学生の学業・生活指導に当たります。研究指導、発表及び論文作成指導を定期的に個別・全体で実施します。なお、様々な専攻の学生の受入を可能にするために、研究指導を行う際に、人間社会学域等のその専門に応じた教員の協力を得ることもあります。日本語担当教員及び日本文化科目の講義担当の学内教員の合計数は約30名にも上ります。

■ 宿 舎

本プログラムの参加学生は以下のいずれかの宿舎に入居できます。

1) 金沢大学国際交流会館

(キャンパス内にある金沢大学の留学生及び外国人研究者用の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万円

2) 金沢大学学生留学生宿舎「先魁」

(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万円

3) 金沢大学学生留学生宿舎「北溟」

(キャンパス内にある金沢大学の学生及び留学生及の居住施設。単身者に限ります)

寄宿料、光熱水費：月額約3万8千円

■ 修了生へのフォローアップ

本プログラムの修了生は、所属大学に戻り学位を取得後、大半が大学院へ進学します。さらに大学院進学者の約半数程度は、本学もしくは日本国内の他大学の大学院へ進学しています。その他、日本で日本企業に就職したり、母国で日系企業に就職するなど、ほとんどの修了生が日本とかかわりのある仕事に就いています。

■ 問合せ先

<担当部署>

金沢大学国際部留学企画課留学支援係

〒920-1192 石川県金沢市角間町

TEL : +81-76-264-5237

FAX : +81-76-234-4043

E-mail : st-exch@adm.kanazawa-u.ac.jp

<ウェブサイト>

金沢大学国際機構：

<http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

日研ホームページ：

[http://kuglobal.w3.kanazawa-](http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/program/nikken/)

[u.ac.jp/sie/program/nikken/](http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/program/nikken/)

金沢大学：

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

<担当教員連絡先>

山本 洋 准教授

E-mail : yama@staff.kanazawa-u.ac.jp

峯 正志 教授

E-mail : mmine@staff.kanazawa-u.ac.jp